

河川整備計画進捗状況報告項目（1 / 2）

整備内容シート番号	大項目	事業名	ページ
環境 - 9 - 1	琵琶湖・淀川流域水質管理協議会(案)の検討	琵琶湖・淀川流域水質管理協議会(案)の検討	1
環境 - 17 - 5	河川環境事業 (生育環境の保全・再生)	オオサンショウウオの生息環境を保全する	4
治水 - 1 - 1 - 3	治水事業(洪水対策)	水害に強い地域づくり協議会	7
治水 - 5 - 1	治水事業(狭窄部上流の浸水対策)	上野遊水地事業	9

平成18年5月18日

木津川上流河川事務所

番号	整備内容シート番号	環境-9-1	河川名	木津川上流
47	大項目	琵琶湖・淀川流域水質管理協議会(案)の検討	事業名	琵琶湖・淀川流域水質管理協議会(案)の検討

●現状の課題

上水道用の浄水場では、安全でおいしい水を供給するため、活性炭処理やオゾン処理等の高度処理が実施されていることを鑑みれば、生活環境に関わる環境基準を達成していることで満足するのではなく、さらなる水質の改善に向けた流域全体の意識改革が必要である。

●河川整備の方針

現在の水質汚濁防止協議会をさらに発展させ、自治体、関係機関、住民・住民団体と連携して、河川の流入総負荷量管理を図る琵琶湖・淀川流域水質管理協議会(仮称)の設立を検討する。

●位置図



●木津川上流域水環境管理ワークショップ(平成18年 3月10日 開催)

・木津川上流域で河川等の水質管理・改善のためにそれぞれに、また連携してできることについて、住民団体、流域自治体等の情報共有、意見交換等を行い、流域内の一体的な水環境管理を行政と市民が連携・協働して取り組むため方向性を探る。

●参加者

行政関係

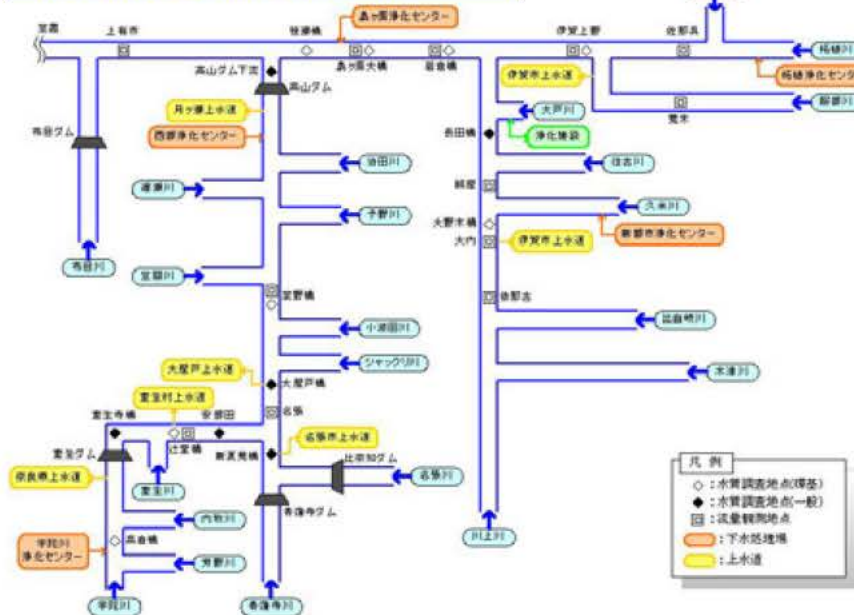
三重県、京都府、奈良県
伊賀市、名張市、宇陀市、
伊賀県民局、水資源機構

市民団体

いがうえの大戸川生活排水浄化パートナー協議会、伊賀環境問題研究会、伊賀市環境保全市民会議、依那古体験隊、川の会・名張、木津川源流研究所、木津川流域ネットワーク、地域と自然、淀川水系の水質を調べる会

●内

河川水質予測モデルイメー



フォローアップ体

(1)推進組織

- NPOの自主性を主体とした運営
- NPO、住民、企業、研究機関、行政など多様な主体が参画
- 河川レンジャー(仮称)などとの連携

(2)活動拠点の設置

- 既存の資料館(遊水スイスイ館など)を活用
- イベント等の拠点、情報・交流スペースなどとして位置づけ

住民・行政とが連携した総負荷量管理に向けて

- 今後、下水道整備の進捗には時間を要する
- 未処理の生活排水を受けける汚濁支川が複数存在する
- 市街地や田畑・畜産等からの負荷流出の寄与も大きい



今後、木津川上流域の水環境を改善していくためには、住民と行政とが連携して、生活排水や市街地等からの汚濁負荷量を削減する必要があります。

そのために、流域からの汚濁負荷量を把握・管理すること、負荷量削減対策の効果を評価することが重要です。



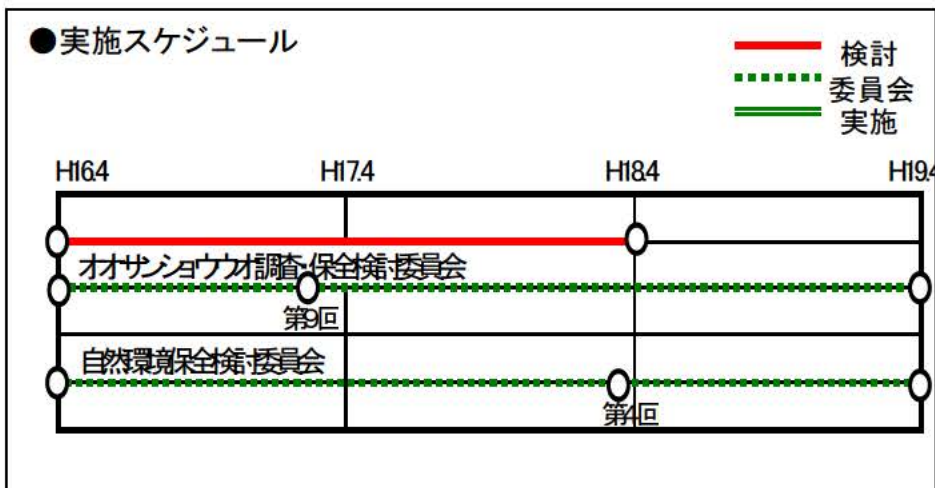
住民一人一人の努力・対応により、河川環境がどの程度改善するのか、定量的に示す検討を行っていきます。

番号	整備内容シート番号	環境-17-5	河川名	木津川上流
62	大項目	河川環境事業(生育環境の保全・再生)	事業名	オオサンショウウオの生息環境を保全する

●具体的な調査検討内容

オオサンショウウオの生息環境を保全する。

●実施スケジュール



前深瀬川流域におけるオオサンショウウオの移転試験

平成8年から平成17年までの調査により湛水予定区域内で確認された122個体を、湛水予定区域の上流に移転することにより保全する。移転の実施に向けて、移転試験及びモニタリング調査を行っており、その結果をもとに効果的な移転方法について検討する。

移転試験の経緯

移転試験は、基礎的な情報を収集、整理しながら段階的に実施している。

項目 / 年度	H10		H11		H13	H14	H15	H16	H17
試験の目的	移転の基礎情報収集 移転後の移動の把握				移転地での繁殖		移転地の環境改善 (人工巣穴の設置含む)		
移転地のオオサンショウウオ 生息密度	高	低	高	低	低	低	低	低	低
移転個体数	2個体	1個体	2個体	3個体	8個体	7個体	27個体	8個体	10個体
	計3個体		計5個体						

平成10年度から平成11年度の移転試験において、オオサンショウウオの生息密度の違いによる影響(生息密度の高い範囲で移転個体の体重に減少傾向)が見られたことから、平成13年度以降は、生息密度が低い範囲を移転地として選定し、移転後の繁殖状況や移転地の環境改善(人工巣穴設置)による生息・繁殖活動状況を把握するための試験を実施している。【河川整備シート 12/44参照】

モニタリング調査

平成16年度からは、移転個体の生息状況及び、移転試験地周辺の経年的な変化の把握、効果的な保全対策を行うための基礎資料収集のために、移転試験地でモニタリング調査を実施している。

〔モニタリング項目〕

- ・移転個体の追跡調査
- ・水生生物調査
- ・人工巣穴の利用状況調査(週1回)

前深瀬川流域におけるオオサンショウウオの移転試験

平成17年度モニタリング調査内容及び結果

・移転個体の追跡調査

調査目的: 移転試験地に放流した個体の生息状況の確認。

調査項目: 夜間の河川内踏査 6月に1回(2日間)
成体調査(4月、8月)で発見した移転個体含む

調査結果: 移転個体58個体(H16年まで)中、26個体を確認。
移転後に再捕獲された個体の体重は、概ね増加。



・水生生物調査

調査目的: 魚類及び底生動物の出現種の経年変化を比較し、移転試験地整備後の環境の把握。

調査項目 ・投網、刺網等を用いた魚類採取
・底生動物の定量採取およびランダム採取
5月、7月、8月、10月に各1回(1日間)

調査結果: 移転試験地整備前後で、魚類、底生動物とも出現種数及び総個体数の減少は見られていない。



平成18年度調査予定

移転個体の生息状況、移転試験地周辺の経年的な環境の変化及び、効果的な保全対策を行うための基礎資料を得るために、移転試験地におけるモニタリング調査を継続予定。

番号	整備内容シート番号	治水-1-1-3	河川名	木津川上流
94	大項目	治水事業(洪水対策)	事業名	水害に強い地域づくり協議会

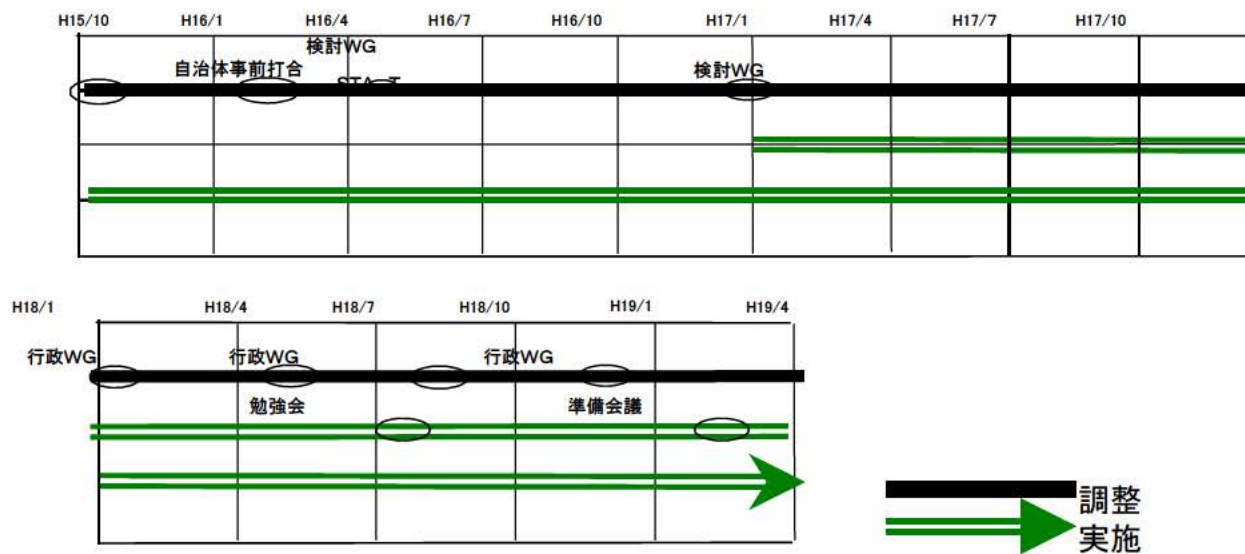
●具体的な整備内容

河川管理者と住民・住民団体、自治体等で構成される「水害に強い地域づくり協議会(仮称)」を設置し、関係者が連携して下記の1)から3)の項目について検討・実施する。

●検討・実施内容

- 1) 自分で守る(情報伝達、避難体制整備)
- 2) みんなで守る(水防活動、河川管理施設の運用)
- 3) 地域で守る(街づくり、地域整備)

●スケジュール



●進捗状況報告

木津川上流河川事務所管内において、特に人口・資産が集中する伊賀市、名張市において行政担当者レベルでの意見交換会を実施してきた。平成17年度は災害時における行政対応について会議を行った。現在までの会議では、自助・共助の重要性及び住民意識の向上について議論を行ってきており、徐々にではあるが自治体の意識も向上してきている。今後は住民意識の向上に向け、自治体が主体となった会議を実施できるよう働きかける。

- ・第1回勉強会(H16. 3. 24) 三重県伊賀県民局、上野市、名張市、水機構、国交省(木津上)
 - ・協議会発足の主旨説明
 - ・協議会組織の提案
 - ・活動内容の提案(情報提供等ソフト対策検討、保水機能検討等)
- ・第2回勉強会(H16. 4. 21) 三重県伊賀県民局、上野市、名張市、水機構、国交省(木津上)
 - ・協議会設立主旨の再確認
 - ・活動内容検討、意見交換
- ・意見交換会(H16. 12. 8) 伊賀市、名張市、水機構、国交省(木津上)
 - ・協議会設立主旨の再確認(市町村合併のため)
 - ・活動内容の検討、意見交換
- ・準備会(H17. 10. 7)
 - 笠置町、南山城村、三重県伊賀県民局、伊賀市、名張市、奈良県、奈良市、山添村、室生村、榛原町、水機構、国交省(木津上)
 - ・協議会設置に向け再確認
 - ・メンバー構成の再確認

今後の見通し

関係者のネットワークを広げ、十分な検討を進める。

番号	整備内容シート番号	治水-5-1	河川名	木津川上流
123	大項目	治水事業(狭窄部上流の浸水対策)	事業名	上野遊水地事業

●具体的な整備内容

狭窄部開削は当面実施しないが、岩倉峡狭窄部上流における洪水時に上野地区の浸水被害軽減を図るため上野遊水地を継続実施するとともに、越流堤の構造について詳細な検討を行う。

遊水地内周囲堤の継続と遊水地機能を有するため、新たに越流堤、排水門、水路、内水排除施設等を完成させる。

●事業の数量・諸元等

越流堤・排水門 4箇所(各遊水地1箇所)

堤防完成 L=10.3 km

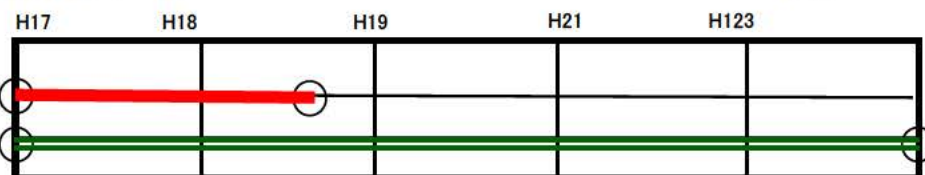
・うち整備計画期間内の数量・諸元等

越流堤・排水門 4箇所(各遊水地1箇所)

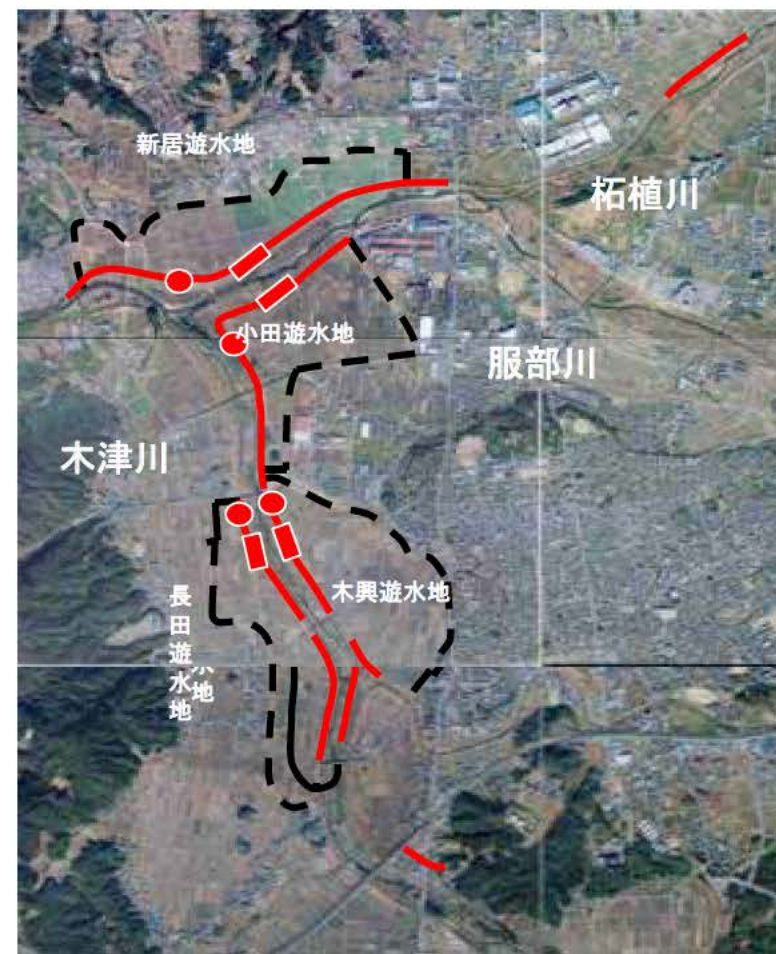
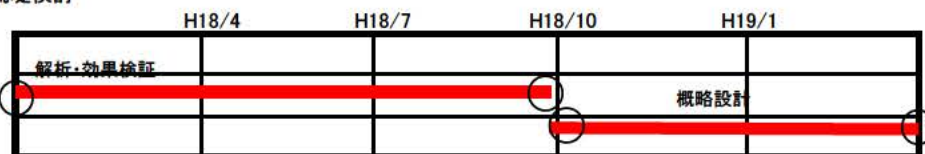
堤防完成 L=10.3 km

●スケジュール

■ 検討 ■ 実施



越流堤検討



平面図

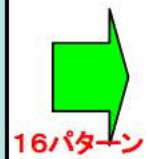
●	排水門(未施工)
■	越流堤(未施工)
—	本川堤(未完成)
- - -	周囲堤(完成)

整備内容シート番号	治水-5-1
-----------	--------

越流堤諸元の検討

概略設定

最適な越流堤諸元については各洪水波形によって異なり、高さとの組み合わせも無数にある。今回の検討はあくまで概略設定値であることから、高さとの組み合わせを次のとおり設定した

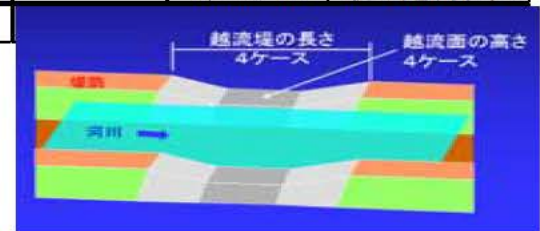


氾濫計算条件の設定

- ・堤防条件: 直轄河道は完成堤防、指定区間は現況堤防
- ・周囲堤 : 完成堤防
- ・対象洪水: 昭和28年以降流量上位10洪水波形(319mmに引き延ばし)
- ・破堤水位: 河道水位が堤防天端高—余裕高に達した時点で破堤
- ・破堤箇所: 順次破堤
- ・越流堤の高さと長さ: 前に示す16ケース

No.	ケース名	越流堤高さ	越流頻度	越流堤長さ	備考
1	C1-1	135.0 m	約1/5年	400 m	現計画
2	C1-2			800 m	
3	C1-3			1,600 m	
4	C1-4			4,000 m	最大越流堤長
5	C2-1	135.9 m	約1/8年	400 m	
6	C2-2			800 m	
7	C2-3			1,600 m	
8	C2-4			4,000 m	最大越流堤長
9	C3-1	136.6 m	約1/10年	400 m	
10	C3-2			800 m	
11	C3-3			1,600 m	
12	C3-4			4,000 m	最大越流堤長
13	C4-1	137.1 m	約1/15年	400 m	
14	C4-2			800 m	
15	C4-3			1,600 m	
16	C4-4			4,000 m	最大越流堤長

参考 堤防天端高—余裕高 137.32 m (平成15年度河道)



氾濫計算結果

ケース名	越流堤高 (m)	越流堤長 (m)	昭和28年8月前線	昭和28年13号台風	昭和34年15号台風	昭和36年10月前線	昭和37年14号台風	昭和40年24号台風	昭和47年20号台風	昭和57年10号台風	平成2年19号台風	平成6年26号台風	合計
C-1-1	135.00	100×4	8,687,870	3,475,650	0	1,906,500	8,898,370	12,165,770	11,258,370	0	9,308,870	9,360,070	65,061,470
C-1-2		200×4	8,831,670	3,571,250	0	2,075,000	9,009,470	12,234,670	11,344,170	0	9,436,070	9,568,570	66,070,870
C-1-3		400×4	9,217,770	4,192,280	0	2,940,300	9,396,870	12,533,170	11,692,670	0	9,822,670	9,943,270	69,739,000
C-1-4		1,000×4	9,318,170	4,566,180	0	3,793,600	9,578,070	12,717,370	11,854,770	0	10,009,470	10,180,770	72,018,400
C-2-1	135.90	100×4	7,541,170	2,256,050	0	1,100,000	8,498,870	11,866,070	10,797,270	0	8,784,470	8,554,870	59,398,770
C-2-2		200×4	7,652,370	2,190,350	0	1,130,600	8,551,570	11,901,870	10,853,170	0	8,874,670	8,671,670	59,826,270
C-2-3		400×4	8,492,370	3,135,350	0	1,909,300	8,896,170	12,135,270	11,244,770	0	9,283,570	9,150,570	64,247,370
C-2-4		1,000×4	8,666,670	3,559,580	0	2,837,000	9,097,470	12,290,670	11,408,470	0	9,471,970	9,385,770	66,717,600
C-3-1	136.60	100×4	7,627,970	3,010,650	931,000	1,230,300	8,368,270	11,736,270	10,635,170	0	8,550,770	8,208,770	60,299,170
C-3-2		200×4	7,639,070	2,270,850	883,500	1,056,100	8,390,570	11,755,870	10,670,970	0	8,592,170	8,235,670	59,494,770
C-3-3		400×4	7,426,270	1,266,000	10,700	1,024,800	8,454,570	11,849,670	10,776,870	0	8,688,770	8,398,170	57,895,820
C-3-4		1,000×4	7,627,970	1,897,200	0	1,785,200	8,579,470	11,916,870	10,885,170	0	8,883,870	8,574,970	60,150,720
C-4-1	137.10	100×4	7,604,570	4,117,350	1,001,400	1,814,650	8,271,870	11,650,870	10,555,770	0	8,430,970	8,094,870	61,542,320
C-4-2		200×4	7,580,270	3,907,050	1,000,500	1,614,800	8,271,870	11,650,470	10,556,770	0	8,429,170	8,102,570	61,113,470
C-4-3		400×4	7,563,770	3,735,150	999,400	1,181,300	8,304,870	11,694,670	10,577,970	0	8,479,670	8,126,870	60,663,670
C-4-4		1,000×4	7,194,470	2,948,950	999,200	1,155,150	8,314,970	11,738,570	10,628,870	0	8,507,170	8,185,370	59,672,720

 現計画 (H=135.00m, L=100m)
 検討(案) (H=136.60m, L=400m)

越流堤の諸元の見直しを行っても既往最大規模の洪水に対して氾濫被害が発生する。そのため、越流堤規模は遊水地単独で一番氾濫低減効果のあるC3-3案として検討を行っている。

上野遊水地越流堤検討フロー

